

第 4 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成9年12月16日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 辻 田 実
3番 三 上 英 男
5番 忍 足 利 彦
7番 斉 藤 実
9番 島 田 保
11番 秋 山 光 章
13番 脇 田 安 保
15番 山 崎 雅 己
17番 岩 村 勝 弘
19番 川 名 正 二
21番 山 中 金治郎
24番 福 原 勤

2番 本 橋 亮 一
4番 小 幡 一 宏
6番 鈴 木 順 子
8番 増 田 基 彦
10番 宮 沢 治 海
12番 植 木 馨
14番 永 井 龍 平
16番 鈴 木 忠 夫
18番 日 下 君 敏
20番 神 田 守 隆
22番 榎 本 春 光
25番 飯 田 義 男

1 欠席議員 1名

23番 石 井 昌 治

1 出席説明員

市 長 庄 司 厚
収 入 役 永 野 修
総 務 部 長 鈴 木 完 二
経 済 環 境 部 長 小 沼 晃
水 道 課 長 鈴 木 基 博

助 役 小 幡 清 之
企 画 部 長 寺 嶋 清
市 民 福 祉 部 長 渡 辺 富 雄
建 設 部 長 鈴 木 信 一
教 育 委 員 会 長 高 橋 博 夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵 藤 恭 一
書 記 四ノ宮 朗
書 記 加 藤 浩 一

事 務 局 長 補 佐 鈴 木 哲
書 記 鈴 木 達 也
書 記 松 浮 郁 夏

1 議事日程(第3号)

平成9年12月16日午前10時開議

議案第55号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部
を改正する条例の制定について

- | | | | |
|------|---|--------|---|
| 日程第1 | { | 議案第56号 | 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第57号 | 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第58号 | 館山市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第59号 | 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の制定について |
| | | 議案第60号 | 館山市下水道条例の一部を改正する条例の制定について |
| 日程第2 | { | 議案第61号 | 平成9年度館山市一般会計補正予算（第4号） |
| | | 議案第62号 | 平成9年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第1号） |

開 議 午前10時03分

◎副議長（日下君敏君） 本日の出席議員数24名、これより第4回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎副議長（日下君敏君） 日程第1、議案第55号乃至議案第60号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（日下君敏君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆君。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告いたしました諸点につきましてお尋ねをいたします。

議案の第55号、56号、58号の各議案は、それぞれ非常勤、市長ら及び市職員の外国旅費の旅費規程の支給基準の明確化をしようとするものでありますが、これについてお尋ねをいたします。

まず第1点は、航空賃のクラスは非常勤特別職も市長等三役等も市の職員の場合も、いずれも最下級、エコノミー料金によることとされていますが、これに対して鉄道賃、船賃は最上級クラスに位置づけられております。鉄道、船、航空賃の基本的な考え方はどういうことによるものなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、外国旅費についての細かい規定を今回決めようとするものでありますが、その一方で団

体研修旅費はそれらの規定にかかわらず、団体の請求額で行うことになっています。実際的にも団体で行く外国研修旅費ということも大変多くあるかと思うのであります。この場合、団体研修旅費について請求額をそのまま無条件に支給するという事になれば、せっかくつくったこの基準の抜け穴になるということも危惧されるわけでありますが、この点についてどのようにお考えになりますか。

次に、議員の外国視察研修には全額を公費で負担するのではなく、一部個人負担という公費負担の限度額をこれまでとってまいりましたが、今回の規定の中にはこの点について何ら触れていません。この問題について制限、限度額という問題についてどのようにお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、議案の第57号館山市職員給与条例の一部を改正する条例であります。特殊勤務手当の改定についてお尋ねをいたします。特殊勤務手当については、住民訴訟がされていると聞きますが、この住民訴訟については道理を欠くものであって、住民本位の真の行政改革とは相入れない職員いじめの住民訴訟と言わざるを得ません。むだのない、効率的な住民本位の行政を実現することこそ真の行政改革であって、市職員の参加と協力が極めて重要だと考えます。

そこで、まず特殊勤務手当の改定は、職員の労働条件にかかわる事柄でありますから、当然市職員の理解と協力が大切であり、これまで協議を重ねてきているものと思いますが、市職員に無理強いするようなことであってはならないと思います。この協議の経過と結果について御説明を願いたいと思います。

次に、改定案は従来の手当のうち13項目に及ぶ廃止を基本としています。の中には、特殊勤務手当の典型的な例とされる税務手当までもが含まれているわけであります。税務手当を特殊勤務手当から廃止するというのは極めて珍しいケースなのではないかと思うのでありますが、これら特殊勤務手当の見直しはどのような観点からしたものなのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、特殊勤務手当の見直しは行政改革の一環として位置づけられているようですが、支給額はこの改定の結果どうになるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に、議案の第59号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の制定についてお尋ねをいたします。まず、今回の条例制定は、公営住宅法の改正に伴い、これまでの市営住宅管理条例の全部改正であります。条例案の第3条によれば、市営住宅の定義についてですが、これまでの市が建設する住宅だけではなく、市が買い取ったものや借り上げたものでも市営住宅とすることができるようになっております。市営住宅は、条例案では別表で示されているところでありますが、これには買い取りあるいは借り上げのものはありません。今後の市営住宅のあり方として、市は買い取りあるいは借り上げの市営住宅というものについてお考えがあるのでありましょ

聞かせたいと思います。

次に、条例案第14条は、家賃の決定方法を示しておりますが、これまでの家賃の決定方法と大分違うように思うのでありますが、どのように変わりますか。その家賃の決定方法について御説明をいただきたいと思います。また、この結果、市営住宅の家賃は全体として値上げになるのかどうか、結果的にはむしろ値下げになるのかどうか、この内容について御説明をいただきたいと思います。

次に、収入超過者及び高額所得者に対しては、明け渡しを求めることに重点が置かれているわけですが、この明け渡しを求めることに該当する世帯、現実には何世帯あるというふうに理解をしたらよろしいでしょうか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（日下君敏君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第55、56、58号の外国旅行の旅費規定の支給基準の明確化についての御質問でございます。第1点目、鉄道賃、船賃、航空賃の基本的な考え方についての御質問でございますが、国家公務員の外国旅費の例を参考に、運賃の等級を定めようとするものでございます。

なお、館山市におきましては、航空機の使用につきまして、一般職と特別職のいずれも最下級としております。

第2点目、団体研修旅費についての御質問でございますが、団体研修の航空機の使用につきましても、最下級で積算されておりますので、不均衡は生じないものと考えております。

第3点目、議員の海外視察研修に関します旅費につきましては、条例に基づき支給いたします。

議案第57号に関します特殊勤務手当についての第1点目、職員組合との協議についての御質問でございますが、職員組合との協議は調っております。

第2点目、特殊勤務手当の見直しにつきましては、時代背景や業務の縮小、行政改革等によるものでございます。

第3点目、支給額と削減額についての御質問でございますが、平成8年度の支給総額は約1,600万円で、条例改正によりまして150万円程度の削減が見込まれます。

次に、議案第59号に関します第1点目、市営住宅の買い取りと借り上げについての御質問でございますが、この制度はこのたびの公営住宅法の改正に伴って導入された制度でございまして、現時点では考えておりません。

第2点目、市営住宅の家賃の決定方法及び結果についての御質問でございますが、旧公営住宅法によります家賃は、主に工事費並びに維持費等を勘案して定めておりました。今回の改正によ

りまして、家賃は毎年度入居者からの収入申告に基づき収入区分に応じて定められております家賃算定基礎額に市営住宅の立地、規模、経過年数及び利便性の各係数を乗じた額で、かつ近傍同種の住宅の家賃以下として定められるものでございます。その結果、いずれも試算ではございますが、対象となります 296世帯のうち家賃の下がる世帯数は 225世帯、上がる世帯数は41世帯でございます。

第3点目、収入超過者及び高額所得者に該当する世帯についての御質問でございますが、収入超過者は18世帯、そのうち高額所得者は1世帯となる見込みでございます。

以上でございます。

◎副議長（日下君敏君） 20番神田守隆君。

◎20番（神田守隆君） 外国旅費の場合 — 外国旅費についてなんですが、せんだって東葛の議員が海外視察に行ったのがずっとテレビで取材されていまして、それをたまたま私テレビ見まして、非常に議員の海外視察に住民の厳しい目が注がれていること、それと議員の海外視察のあり方、これが今問われているんだなということを身の引き締まる思いをしながら見たわけですが、団体で行く場合、今回旅費規程をつくったわけですが、団体についてはその団体からの請求額でやりますよ。今先ほどエコノミーで飛行機は算出してありますよということであったんですが、実はテレビの報道でもベルサイユ宮殿に行っていたりとか、そういうこととか、これは観光ではないか、こういう形での視点での批判といいますか、こういうものが非常にされていたわけです。

そこで、団体で行く場合は団体の請求額という形でだんごになってきてしまうわけで、そうすると、その中で公平な目で見て視察と言える部分と、中には観光と言える部分とが混在をしているということはよくあることだし、考えられることなわけです。そうすると、その辺については住民から監査請求が出たりとか、いろいろ問題のあるケースなわけで、したがって団体旅費という形で今回せっかく市としての支給基準の明確化を図るというふうにしたわけなんです、ちっとも明確化にならないんじゃないか、団体からの請求ということになってしまうと。したがって、団体旅費について、これは中身もやはりそれなりにチェックをしていくということを考えていかないといけないんじゃないかな。その辺のお考えはあるのかどうかということです。

それから、議案の職員給与条例の問題でありますけれども、まず税務手当の問題については、私は今回賦課業務にかかわる税務手当は廃止だというのは、なかなかちょっと理解できないところなんです、これが税務手当が全体としてはもう特殊勤務手当と言えば、その典型例として行われるのが税務手当なわけですから、館山市のように一気に廃止してしまうというのは、ちょっと本来特殊勤務手当の一番もう典型例とされるものを廃止してしまうことは、これが認められなかったら、あと何も認められないんじゃないかというぐらいの考えがあり得ることなんです。したがって、この税務手当の支給について、県内28市、状況については、賦課にかかわる税務手当

どういふふうになっているのか。

それから、年末年始手当を廃止するというんですけれども、年末年始の勤務というのは一般社会においても特別の配慮を必要とするというのは、これは社会的な、いわば認識だと思ふんです。私は、富士ディーゼルに勤めていたときに、年末年始の手当の問題めぐって会社側と交渉したりした経験もあるんです。そのときのこともあるんですけれども、当時でも年末年始の出勤については割り増し率は100%です。1日働けば2日分です。それに、さらに酒肴料といって酒とさかな料ということで当時幾らだったか、ちょっと記憶は定かではありませんけれども、それをつけるということで会社側と妥結もした記憶あるんですけれども、それはかなり社会的に認められていることで、民間においても当たり前になっていることだろうと思ふんです。年末年始手当廃止をするというんですが、聞くところによれば、時間外の割り増し手当も35%ですか、年末年始の手当も。こういう状況で年末年始手当も廃止するとすると、社会の常識から見ても少し低過ぎるんじゃないかなと思ふんですが、民間の状況についての調査等がありますか。

次に、公営住宅の問題でありますけれども、この公営住宅法の改正で厄介な問題ではないかなと思ふのが、いわゆる明け渡しを求めるという問題かと思ふんですが、高額世帯に該当するのが1世帯だ——明け渡し義務があるのは1世帯だ、こういうふうな先ほどのお話なんですが、ゼロというならばあれなんですが、1世帯ということになりますと、いわばそれが1つのリーディングケースといいますか、こういうことになるのかなということで、数が少ないということではやれやれという面もあるんですけれども、しかしそれが1つのリーディングケースだというふうに見ると、おろそかにできない問題だろうと思ふんです。

それで、この条例案読みますと、結局は明け渡し請求を市長が行うということになっているわけですが、それについては明け渡しの請求を延期することができるということで、さまざまな事柄があって、やっぱり市長の裁量というものがかなり大きなウエートで出てくるんじゃないかと思ふんです。そういう点では、まさに市長の判断がこのケースではどうなったんだ、このケースではどうなったんだということで、かなりウエートを置かれる形になるもんですから、大変高額所得者にかかわる明け渡し請求という問題について、どういふふうにお考えになっておられるのか、この規定の運用についてどういふふうに関心されているのか、お聞かせいただきたいと思ひます。

それから、家賃の決定方法が従来のやり方と変わって、従来は建設にかかわった費用あるいはその維持費、これを基礎にして家賃を決めるものですから、基本的には集合住宅の場合にはそれぞれ全部同じ家賃ということになるわけです。しかしながら、今回は入居者の収入によって違うということになりますと、同じ団地の市営住宅で、隣とうちとで料金が大幅に違う。隣は収入が多いけれども、うちは稼ぎ手が少なく収入が少ないから少ないんだよというのは、いわゆる家賃

という世間の常識から考えると、非常に常識的には考えられないことなわけです。毎年収入によってですから、料金も家賃も変わるということでは、社会的にはいわゆる家賃というものとは大分趣が違ふぞということになろうかと思いますが、そういうことなんだということでもいいのかどうかということです。

以上であります。

◎副議長（日下君敏君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、外国旅費の中身のチェック — 団体視察旅行に関しましての中身のチェックについての考え方についていかがかということでございますけれども、海外視察に関しましてはおっしゃいますとおり、慰安旅行あるいは物見遊山というような必要性に疑問を呈するような新聞報道等がなされているところではございます。従前からそうでございますけれども、この団体での海外の視察旅行に参加いたします場合は、その企画内容がいかがかということをも十分検討いたしまして参加する。そういう意味では、その企画内容のチェックというのは今後とも欠かせないものであろうというふうに考えております。

それから、税務手当 — 特殊勤務手当の代表と言われております税務手当の県内各市の支給状況でございますけれども、私どもの方で調査いたしましたところ、税務事務に従事していることだけをもって税務手当を支給しているところ、当然ございますが、それだけで支給していないところ12市ほどございます。

それから、年末年始の手当の廃止に関しましてでございますけれども、確かにおっしゃいますとおり、その年末年始というのは一年の締めくくりあるいは祝賀の時期ということで、時期的な特殊性は確かにございます。それに対しまして、一般企業等についてもそれなりの手当をしているということも聞いておりますが、その状況等につきましてはさまざまでございます、私どもの方、細かく把握はしておりません。しかしながら、議員おっしゃいましたように100分の35という割り増しの給与を払いますことによりまして、職員の理解は得られているものというふうに考えております。

以上でございます。

◎副議長（日下君敏君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 高額所得者に対する明け渡しの方法でございますが、今回の法改正の中で明け渡し規定の適用ということでございまして、明け渡しの期間を6カ月を経過した日以降の日とし、また入居者等が病気にかかったり特別の事情がある場合は、申し出により期間を延長することができるということになってございます。

まず、この高額所得者というものは、5年以上入居した場合で最近2年間引き続き収入月額が39万7,000円を超える者ということになっておりまして、この適用をしていきたい、このように

思っております。

それから、入居者の収入による家賃の格差でございますが、これは今回の公営住宅制度の改正は、高齢者や障害者等、真に住宅に困窮する者に対しての公営住宅を供給することが主たる目的でございます。法の改正に基づいて、算定基礎額というものがいろんなケースをもって算定をされます。やむを得ないことじゃないかと、このように思っております。

以上でございます。

◎副議長（日下君敏君） 以上で20番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑は終わりましたが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎副議長（日下君敏君） ただいま議題となっております議案第55号乃至議案第60号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

議案の上程

◎副議長（日下君敏君） 日程第2、議案第61号及び議案第62号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎副議長（日下君敏君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

20番議員神田守隆君。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 議案の第61号館山市一般会計補正予算（第4号）についてお尋ねをいたします。

説明書の36ページ、補正予算主要事業説明書により質問をしていきます。土木費の下水路等整備事業の下水路等調査測量設計委託料の増 519万 5,000円についてであります。説明によりますと国道410号北条バイパスの排水計画の見直しに伴い、都市計画道路青柳大賀線の排水計画と整合を図るための委託料の増とのことあります。

まず、この国道410号北条バイパスの排水計画見直しで、境川、代田排水路の溢水対策はどのようなになりますか。境川や代田排水路の流域が少なくなるのではないかと思いますのでありますが、いかがなんでしょうか。

次に、境川のネックの解消のため、富士橋より上流部分の川底を下げることや、境橋部分の拡幅の必要があると思うのでありますが、この境川の対策は県の仕事ということになっているわけですが、どのようになると承知しておりますか、御説明をいただきたいと思います。

次に、代田排水路の改修は境川との整合を持って計画を検討しているものと思いますが、どのように検討をされているのか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（日下君敏君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第61号一般会計補正予算の（第4号）の下水路等調査委託料についてのその1、第61号に關します下水路等調査委託料についての第1点目、境川、代田排水路の溢水対策についての御質問でございますが、国道410号北条バイパスと都市計画道路青柳大賀線の排水計画との整合を図りまして、代田排水路に流れ込む雨水の分水計画を考えております。

2点目の境川の改修についての御質問でございますが、富士橋より上流部の拡幅は非常に困難でございますので、川の掘削工事を実施し、河床を下げることにによりまして流下能力の向上に努めていく、この計画であると館山土木事務所より伺っております。

第3点目の代田排水路の改修計画についての御質問でございますが、分水計画と2級河川境川の改修が実施されますと、流量が減少すると考えております。したがって、今後流量に応じた新たな排水計画を立てていく考えでございます。

以上でございます。

◎副議長（日下君敏君） 20番神田守隆君。

◎20番（神田守隆君） 境川あるいは代田排水路の問題というのは、非常に長い間この場でも議論されてきた問題で、少し動きが見えてきたなという感じがするわけなんです、この代田排水路の雨水の分水ということで、そういたしますと、おおむね流域面積等の関係も含めましてどの程度分水がされるというふうに理解をしたらいいのか。

それと、青柳大賀線への排水路への分水の実施の時期、これはどういうふうに見込んでおられるのか。

それから、同様に県の境川のネック解消の川底を下げますよというお話でしたけれども、これはおおむねどういう時期に計画がされているというふうに理解したらいいのか、お聞かせいただきたいなと思いますけれども。

◎副議長（日下君敏君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） この代田排水路の分水によりまして、どの程度の分水ができるかと

いうふうな御質問でございますが、まず国道 410号北条バイパスから上流部を遮断するような形になりますので、面積で代田排水路の流域面積が約56ヘクタール程度でございます。今回そういった分水計画により、約2分の1程度水が分水されるんじゃないだろうか、このように思っております。

それから、その代田排水路の時期でございますけれども、今後県の計画、そういうものを見ながら実施期間を定めていきたい、このように思っております。

それから、川底を下げる時期でございますけれども、これはできるだけ早い時期——10年度の早い時期に実施をするように県の方にも要望してまいりたい、このように思っております。

以上でございます。

◎20番（神田守隆君） 終わります。

◎副議長（日下君敏君） 以上で20番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告による質疑は終わりましたが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎副議長（日下君敏君） ただいま議題となっております議案第61号及び議案第62号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

延 会 午前10時39分

◎副議長（日下君敏君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎副議長（日下君敏君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明17日から21日まで委員会審査のため休会、次会は12月22日午前10時開会といたします。その議事は、議案第55号乃至議案第62号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは12月22日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第55号乃至議案第62号